

「中小企業ナレッジネットワーク」令和6年度の活動報告

1. 活動の概要

本年度は、新潟県内外の中小企業を対象に、企業間ネットワークおよび地域連携に関する調査・研究活動を実施しました。インタビュー調査や現地調査に基づく現状把握に加え、得られた知見をもとにネットワーク分析などの手法を用いた研究を進め、学術誌への成果発表も行いました。具体的には、燕三条地域の製造業を中心に、プラスチック製品製造業および金属製品製造業に関するネットワーク構造や、地域商社が果たす流通・媒介機能について分析しました。また、新潟県内のワイナリーに対しては、ブランド形成や地域連携の取り組みに関する実態調査を実施し、地域産業の課題や強みについての理解を深めました。これらの活動成果は、来年度のケースブック作成に向けた重要な基礎資料となっています。

2. 主要な研究・調査活動

(1) 企業インタビュー・現地調査

新潟県内のワイナリーを対象に、地域ブランド形成、ワイナリー間のネットワーク、観光・関連産業との連携、消費者動向などについてインタビュー調査を実施しました。特に岩の原ワインへのヒアリングからは、オリジナル品種の育成、地域貢献意識、他地域との比較、今後の成長戦略などに関する知見を得ました。

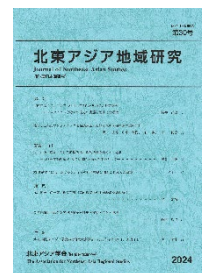


また、燕市に本社を構える江部松商事を対象に、業務用厨房用品・調理用品の流通に関するヒアリングを実施しました。燕三条の製造業と県外市場を結ぶハブ機能や、商社として地域産業の技術と市場ニーズをつなぐ役割、さらには卸売業ならではのネットワーク形成の工夫について情報を収集しました。

他地域の成功事例として、今治タオルや岡山デニムに関するインタビューを行い、企業間ネットワークの形成過程、地域ブランドの構築、リーダーシップの重要性などについての考察を深め、新潟県内中小企業への応用可能性を検討しました。

(2) ネットワーク構造分析および論文執筆

燕三条地域のプラスチック製品製造業における企業間取引ネットワークを対象に、燕市・三条市の構造的相違についてネットワーク分析を行いました。分析の結果、三条市の企業ネットワークがより密接であることが判明し、先行研究とは異なる新たな知見を提示することができました。本研究結果は『北東アジア地域研究（第30号）』に掲載されています。



そして、ネットワーク分析および質的調査を統合し、燕三条地域の金属製品製造業と卸売業の取引構造を可視化しました。そのうえで、江部松商事が地域の流通ネットワークにおけるゲートキーパーとして果たす重要な役割を明らかにしました。この研究は、江部松商事に内容のご確認を頂いており、その後『Annals of Business Administrative Science (ABAS)』に投稿する予定です。

令和7年度には、これまでに実施した新潟県内外の中小企業ネットワーク・地域連携に関する調査・研究成果を取りまとめ、ケースブックとして出版する予定です。学術的知見を基盤に、地域産業の持続的成長を支援する実践的アプローチの構築を目指します。

文責：張 文婷